

近況 岡 誠四郎

何を書こうかと色々思案したが、自分が美術をどう学んできたかを書こうと思います。雪国の片田舎の工業科程校を出て、集団就職で東京の印刷会社に入社したもの、2年を過ぎた頃から生活の張りのなさに自分の心が悲鳴を上げ始め、20歳の心を燃やして全力で何かをやってみようという欲求に駆られ、会社を辞め22歳の4月から美術学校を受験する。

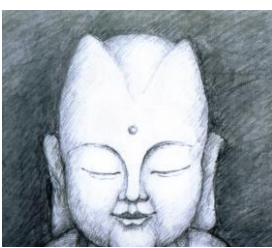
予備校に入り水彩とデッサンを学び始めました。午前のデザイン科コースで1浪の人が大勢でした。午前は予備校に通い、午後はバイト、すべて自分で賄っていました。3年近く土、日、祭日第5週以外毎日、朝8時〜11時半まで学んでいたのを思い出します。

受験では実技と学科があり、幼少期から高校生まで自然の中で遊びほうけていたので、学科が受からず、唯一学科試験がなくデッサンのみという某大学の油絵専修科というのを見つけ入学した。(デザインコースから油絵とは？当時の私はその程度でした)一応油絵道具だけ用意して3年間コースで学び始めました。この時も昼間学校と半分バイトの生活でした。

3年間は殆ど油絵は描かず人体デッサンに夢中でした。当時松木路人先生、山口長男先生というすごい先生がいらつしやつたのに、それが分かったのが54歳を過ぎてからという情けない学生時代でした。両先生からは自分の表現したい事を如何に表現し具現化するかとという手本を、今示されている感じがします。

趣味で始めた墨絵の技法も用いて、色は使いたくし、今まで学んだことを自由に駆使し表現しようと思っています。

絵を描くことで多くを学び、今生活の芯となってきたことに感謝しています。



45年ぶりに写真から鉛筆デッサンしてみました

刻を超えて今 川井セツ子

第三十一回展(平成十九年)の審査に出させて頂いてから、九年もの年月があつたという間に通り過ぎました。日毎に募る足の痛み、病魔との遭遇により五年余りの沈黙生活を強いられ、やつとのことで二十四年第三十六回展への出展にたどり着き今に至っております。

足は動かなくても、机上での小さな作品作りぐらいなら出来るであろうと思つてはいたものの、痛みに襲われ歩くこともままならず、主婦業は皆無に等しく、不慣れた夫にすべてを任せる日々の繰り返し、三度の手術とリハビリを乗り越えて久しく訪れた、痛みが無く自分の足で立てた。当たり前の喜びに浸る日々。

三度の入院生活も、部屋友に恵まれ、お互いづらさに堪えながらも笑いの絶えない楽しい雰囲気のお蔭で、傷の癒えも加速した様に思えてなりません。



40回展に出展した作品

二十五、二十七年に個展も再開させて頂き、作品作りの工程で得られるときめきに再び出会える刻が訪れようとは...ここに至ったすべてに「ありがとう」の言葉を伝えたい思いでいっぱいです。そんな日々を重ね、九年ぶりの都美術館との再会を楽しみに、部屋友と四十回展に臨ませて頂き、力作揃いの作品群との出会い、懐かしい方々との再会の喜びを噛みしめ、今ある幸せに暫し酔い痴れておりました。

会員紹介(東京支部)

数学とアートの地平に 「菅野正人さん」の挑戦

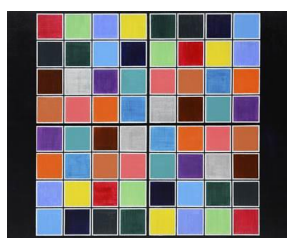
第40回新日美展に出展された油彩画「数学と宇宙のかけ橋―立体魔方陣の公式―」と工芸の部の「数学と宇宙のかけ橋―ピタゴラスの暗号―」四色問題の証明ピタゴラスストーン。長い題名の難しそうな世界ではありません。スーパーリアリズムという写真と見紛うような人物画や夜景を描かれていた数年前の画風から一変し、今やもっぱら数学の「見える化」的作品が主です。

彼は昨年まで高校の数学の先生でした。生徒たちの「考える力」を鍛えたいと発想力教育研究として考案した「ねこパズル」からはじまった数学研究。

ある時スペインのサクラダファミリアで偶然『魔方陣』の壁画と出会います。菅野さんの研究はパズルから「魔方陣のDNA」「立体魔方陣」へ。



菅野さんが数学力UPのため考案し出版した本



40回展に出品した絵画「数学と宇宙の架け橋―立体魔方陣の公式―」



作品の「立体魔方陣」を手に説明をする菅野さん(右側)

その過程は一冊の本に纏め発表されましたが、研究はさらに進みます。数学研究のまとめとして最後に選んだテーマが「素数」です。数学界の最後の難問とされている謎に迫ります。現在では素数がどんな法則に従って現れるか解明されていないということになっているそうです。菅野さんの発見した新しい概念(昔数論)で試してみると、なんと積み木を並べるだけで素数誕生のメカニズムが説明できてしまったというのです。数学会に持っていき、専門誌で発表し、従来から取り組んでいるアートと合体させ、色々な場で展示、説明、出版を精力的に続けています。

一五〇年も証明されないでいる「リーマン予想」とやらがここで解明されたとなつたら！新しい分野、新発見の場面に新日美が一役買っていた、となることも大アリ、でしょう。「それは数学の世界でやってください」という声も聞こえてきそうですが、思えば、かのダビンチは、建築学、数学、解剖学、植物学、天文学等々のスペシャリストでした。事実、菅野さんにも熱烈なファンがいて先日訪れたグループ展で「この先生は凄いですよ」と私に熱く語ってくれた方がいました。(写真左側の方)これからの展開が楽しみです。(早田記)